

au PAY Web システム品質改善活動 投稿要領

小松 優太
KDDI 株式会社
ya-komatsu@kddi.com

常盤 香央里
グロース・アーキテクチャ&チームズ株式会社
k.tokiwa@graat.co.jp

要旨

1年半にわたり担当システムの品質改善を実施してきた。その改善活動の内容と効果を紹介する。

1. プロダクトの課題

当社が提供している、モバイル決済サービスである「au PAY」の Web サイトシステム(以下当システム)において発生した品質面での課題について紹介する。

当システムでは従来のウォーターフォール開発プロセスと業務委託体制を見直し、アジャイル開発へのシフトと内製化の強化が行われた。しかしシステム内部、外部両方から品質に関して指摘されており、早急な品質改善が必要な状況であった。

原因を分析したところ、複数の問題点が明らかになった。

1. 開発チームはコードを書くことのみが主な職務とされ、試験などの品質に関わる部分が軽視される状態だった。
2. 一部の開発者によって単体試験は行われていたが、必要な品質を担保するには十分ではなかった。
3. テスター(テスト設計・実行を担うメンバー)の人数や経験の不足があり、開発者のカバーができていなかった。

2. 品質向上に向けた活動

明らかになった問題点に対して改善活動を実施した。

テスト領域の増員を行い体制強化し、開発者とテストターの試験範囲を明確化した。さらに、開発者への試験に関する勉強会をはじめ、OJT を実施した。

これらの活動により問題点1に変化をもたらしたが、依然として自律的に動けない状況が続いていた。そこで、社外の協力を仰ぐ形でワークショップ活動を起点とした改善活動を行うことで、試験に対する拒否感やそれに伴う

意識の改善に取り組んだ。

3. 改善活動により得られた効果

改善活動の結果、以下の効果が得られた。

体制強化、内部での勉強会を実施したことにより不足していたテストを実施することができ一定の品質を担保できるようになった。

また、社外とのワークショップを経てスクラムイベント、プロダクトバックログアイテム(PBI)の記載内容が品質にどのように関連するか理解が進んだ。

試験方法や対象範囲、観点などについて、チーム内で会話が活発になり、共通の意識を持つことができるようになった。

副次的な効果として、品質改善の必要性についての認識が共有され、改善活動を継続することへの前向きな意識も生まれた。これらの結果、チーム全体の品質向上への取り組みが一層強化された。

4. 品質向上活動の総括

改善活動を通じて、当システム内部の開発プロセスはウォーターフォール開発に適合していた完全分業から、アジャイル開発へのシフトと内製化の強化に適合した開発プロセスに向かって転換しあるべき姿へ前進している。

しかし、改善の過渡期に作成した作成物の品質や、開発者以外のメンバーを含めたプロセスには、まだ改善の余地がある。

今後は、開発者だけでなくテスターを含めたチーム全体の改善活動として継続していく。

引き続き内部での改善活動、社外との品質改善ワークショップを通じて当システム全体の品質を向上させていきたい。